

研究 主題	音楽の生み出すよさや面白さを学び合いながら味わって聴く授業を目指して —音楽を形づくっている要素を手掛かりにした学びの工夫—
----------	---

第6学年音楽科学習指導案

指導月日 令和2年10月7日

所属校名 富谷市立東向陽台小学校

氏名 後藤 由紀

1 題材名「曲想の変化を感じ取ろう」（教育芸術社 小学生の音楽6）

2 題材の目標

- ・ 速度、強弱、音の響きの変化と曲想及びその変化との関わりについて理解する。[知識及び技能]
- ・ 速度、強弱、音の響きの変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。[思考力、判断力、表現力等]
- ・ 音楽の仕組みや曲想の変化に興味を持ち、音楽活動に親しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとする。[学びに向かう力、人間性等]

3 題材観

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）音楽第5学年及び第6学年の内容より、B鑑賞(1)「ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと」、「イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること」、[共通事項] (1)「ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えること」「イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること」を受けて設定したものである。

本題材では、『ハンガリー舞曲第5番』（作曲／ブラームス）を取り上げる。曲の構成を大きくくりで示すと「主部→中間部→主部」の三部形式になっており、強弱や速度の変化が分かりやすい。また、調の変化も明確である。児童が音楽の仕組みと曲想との関わりに気づき、曲想の移り変わりを味わって聴く学びで、音楽の資質・能力を育成することに迫るものである。

4 児童の実態〔第6学年3組29名〕

(1) I期の実践より

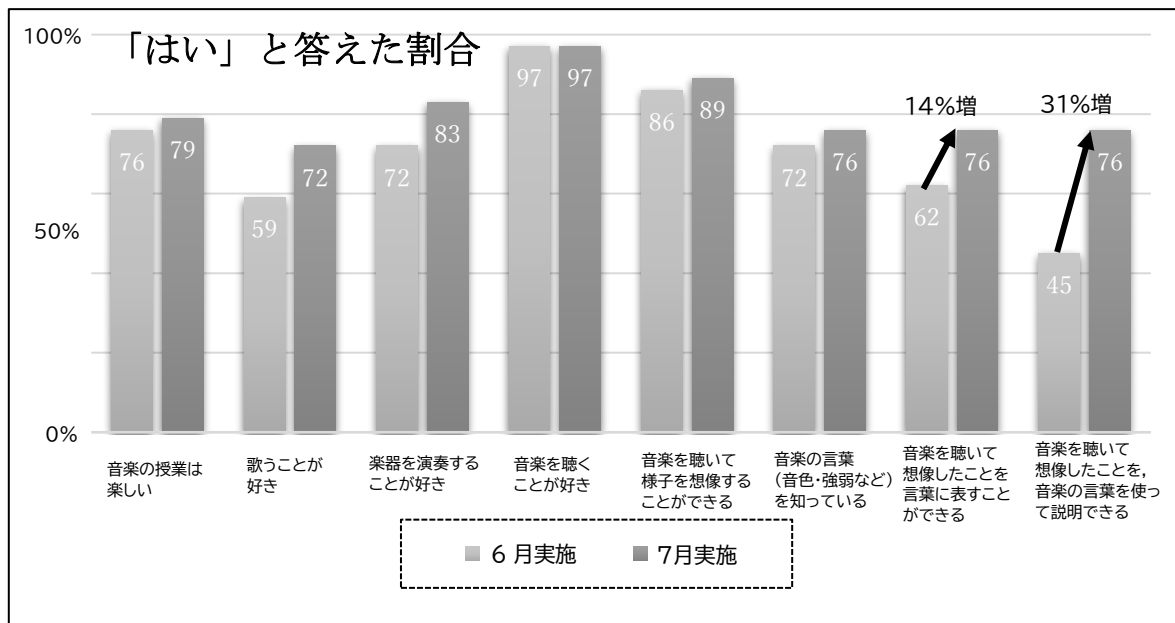
7月に行ったI期の実践授業では、鑑賞の学習に意欲的に取り組んだ児童が多かった。オーケストラの様々な楽器の音色を聴き取ることに興味を持って学習していた。また、音楽を聴いて想像したことや感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて曲紹介を書くことができた児童が7割に達する状況になった。

(2) 意識調査より（6月、7月実施 在籍29名）

I期の実践後、7月に再度行った意識調査（表1）では、「はい」と回答した割合が全ての項目で実

実践前の数値を上回った。なかでも、「音楽を聴いて想像したことを言葉に表すことができる」と回答した児童は14%の増加、「音楽を聴いて想像したことを、音楽の言葉を使って説明できる」と回答した児童は31%も増加した。これらのことから、本実践を通して、音楽的な特徴を聴き取ったことと、感じ取ったことを結び付けて言葉で表すことができ、鑑賞の学習に充実感を感じている児童が増えていることが分かった。本題材のワークシートの感想には、「音楽のもとに分けて聴くことで聴き方が分かった」「音楽の音色、旋律、仕組みなどを言葉に表すのはこの勉強を通して得意になった」と書く児童も見られた。

表1 音楽科における意識調査（R2. 6月・7月実施）



5 指導観

I期の実践授業では、聴き取ったことと感じ取ったことを、音楽を形づくっている要素と結び付けながら理解している児童は増えているが、ワークシートへの書き込みを見ると、中には「感じたこと」のみの記述や発言だけでとどまった児童もいる。II期の実践授業では、I期の実践を生かし、さらに調の変化による響きの感じ方も加えながら曲想の変化に迫る。曲の仕掛けを探る経験を重ねる中で、味わって聴くことの視野を広げさせて行く学習となるが、II期ではさらにより多くの児童に学びの実感を持たせたい。

そこで、導入の楽器当てクイズが児童の意欲を高め、本時のねらいを達成する手立てとして有効であったことから、II期の実践授業においても導入で音遊びを取り入れる。鑑賞教材である『ハンガリー舞曲第5番』は強弱や速度の変化が分かりやすいので、まず全体の流れとして、強弱と速度の変化を聴き取り、主部と中間部の曲想の変化を感じ取らせたい。さらに、短調と長調の変化に気付き、和音の響きの移り変わりが曲想の変化に関わることを理解して曲全体をじっくり味わうことで、I期よりも児童の鑑賞力向上を図りたい。具体的には、これまでと同様に「音楽の聴き方」「音楽のもと」「音楽の感じを表す言葉」を必要に応じて提示し、部分的に繰り返し聴くことで、音楽の特徴をより捉えやすくする。また、身体的な工夫や視覚的な工夫によって、感じ取ったことを明確に意識させたい。さらに、聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせて味わって聴き、この曲のよさや面白さを作曲者へ手紙を書くことによって自分の考えをまとめる活動を取り入れる。その後、グループで読み合い、様々な考えに接することで音楽鑑賞の楽しさを感じさせる。

感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて考えることが苦手な児童には、「なぜ〇〇と感じたのかな」と問いかけ、ワークシートの「音楽のもと」で分類した気付きの中から選ばせたり、他の児童の発言を参考にしながら「△△だから〇〇と感じたということかな」と確認したりすることで、言語活動を通した児童の思考を整理する支援を行いたい。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により対面で学び合う活動が制限されていることから、聴き取ったことと感じ取ったことを結び付ける学習活動では、タブレット端末とアプリケーションソフトを使用し、自分のタブレット端末からコメントを入力する。それを全体で一覧表示することで、友達が感じ取ったことに共感したり新たなことに気付いたりできるような活動を取り入れ、学び合いを行う。

6 研究主題との関連

「音楽の生み出すよさや面白さを学び合いながら味わって聴く授業」を目指し、Ⅰ期ではオーケストラのいろいろな楽器の音色に焦点を当て、『木星』の紹介文を書く学習を行った。Ⅱ期では、強弱や速度の変化に加え、音の響きが醸し出す雰囲気にも注目させ、曲想の移り変わりによる面白さ、美しさに気付かせたい。更に、自分が見いだした『ハンガリー舞曲第5番』のよさや面白さを、作曲者に手紙を書くことで他者に伝える学習を行い、研究主題に迫る実践にしたい。

【手立て】

(1) 「導入」の工夫

① 児童が意欲を高め、授業のねらいに迫るための工夫

音の響きを感じ取らせるために、「気持ちはどっちゲーム」を行う。第1時は長調と短調の和音（Ⅰ－Ⅴ－Ⅰ）を聴き、どんな気持ちになるかを考えさせる。和音の響きが醸し出す雰囲気から長調、短調という言葉の意味を確認する場面をつくる。第2時以降は、短い曲を聴いて、自分が感じ取ったイメージを基に、長調か短調かを色カードで示す。

② 児童が曲を聴いてイメージを膨らませるための工夫

曲名を伏せることで、音楽の雰囲気から自由に情景や場面を想像し、一人一人が意見を出せる雰囲気を作る。その後、「舞曲」について説明する。

(2) 「学び合い」の工夫

① ワークシートの工夫

音楽の構造に着目して聴くために、「聴く観点」（強弱、速度、調）を整理するワークシートを用いて、曲を聴いて感じたことと音楽を形づくっている要素との関わりを理解する。その上で、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを言語でも表現できるようにし、学び合いを深める。

② 身体活動の工夫

音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みに気付いて音楽を聴くことを実感できるようにするために、調の変化によって曲想がどのように変わるかを身体の動きで表現する。具体的にはⅠ期の実践授業を生かし、指揮をして手や身体を動かして強弱や速度の変化を明確に感じ取る。この活動から、友達の動きの様子を見て気付く学び合いを取り入れる。

③ 視覚的な工夫

曲の構成を捉えるために、旋律の動きを音に合わせてなぞった動画を示しながら、聴覚だけでなく視覚も働かせて反復や変化などに気付かせる工夫を行う。また、児童が聴き取った強弱や速度をグラフの線で示す活動を行い、それをテレビ画面で可視化し、比較しながら互いの学びを確認し、曲の全体像を捉える。さらに、聴き取ったことと曲想を結び付ける学習活動で、自分が感じ取った

響きと調との関係について、児童一人一人のタブレット端末からアプリケーションソフトを使ってコメントを入力し、それらを一覧表示することで互いの考えを共有する。

7 題材の指導と評価の計画

[題材の評価規準]

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
鑑賞	＜知識＞ 速度、強弱、音の響きの変化と曲想との関わりについて理解している。	速度、強弱、音の響きの変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。	音楽の仕組みや曲想の変化に興味を持ち、音楽活動に親しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

[題材の全体計画]（4時間扱い 本時2／4）

時	◎ねらい ○主な学習内容	◇評価規準 ・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎ 音楽を聴きとったことと感じ取ったことを結び付けて音楽の構造を捉える。				
1	○旋律の反復や変化を聴き取って、曲の全体像を捉える。	◇曲全体を通して、旋律の反復や変化に気付いている。 ・発言、ワークシート		
2 (本時)	○強弱、速度、音の響きの変化に気付かせ、曲想の変化との関わりを理解する。	◇強弱、速度、音の響きの変化と曲想との関わりに気付いている。 ・発言、ワークシート	◇強弱、速度、音の響きの変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 ・発言、ワークシート	
◎ 曲想の移り変わりを味わいながら聴く。				
3	○曲想の変化と、速度、強弱、音の響きの変化との関わりについて理解したことを生かしながら作曲者への手紙を紹介し合い、演奏のよさや面白さを味わって聴く。		◇速度、強弱、音の響きの変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲全体を味わって聴いている。 ・発言、ワークシート	◇曲想の変化と音楽の構造との関わりに興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・発言、行動、ワークシート
4	○別の指揮者による演奏や、原曲のピアノの連弾を視聴して、曲や演奏のよさなどを味わう。			◇異なる指揮者や演奏形態の演奏に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・発言、ワークシート

8 本時の計画

(1) 目標

- ・ 強弱、速度、音の響きの変化と曲想及びその変化との関わりを理解する。
- ・ 速度、強弱、音の響きの変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考える。

(2) 本時の指導に当たって

本題材の楽曲『ハンガリー舞曲第5番』は、旋律の反復や変化を捉えやすく、速度や強弱、音の響きの変化を伴う曲想の変化を感じ取ることができる。楽曲の構成は大きくくりで示すと「主部→中間部→主部」の三部形式になっている。主部と中間部の強弱、速度、和音の響きや構成は変化が大きく気付

きやすいため、「音楽のもと」を使って聴き取ったことと感じ取ったことを結び付けて整理し、なぜそのように感じ取ったのかを確かめさせたい。また、曲を部分的に繰り返して聴く活動を取り入れたり、アプリケーションソフトなどを使用して視覚的に捉えたりすることで、曲想やその変化と音楽を形づくっている要素との関わりを理解させたい。学習のまとめでは、「ブラームスの工夫」をワークシートに書く活動を取り入れて音楽の構造を捉えさせたい。

(3) 指導過程

段階	主な学習活動 □教師の発問 ◇予想される児童の反応	指導上の留意点[評価]（方法） ♪音楽を聴く時間
導入 8分	1 気持ちはどっちゲームをする。 □「どんな気持ちかな」 ◇「明るい感じ」 ◇「今度はさみしい感じがする」 □「友達の感じ方を見てみましょう。ピンクが長調、水色が短調でしたね」 2 前時の内容を振り返り、本時の学習課題を知る。 □「アとイについて、作曲者がどんなしかけをしているかを探っていきましょう」	♪0:10（長調）×3 ②♪0:10（短調）×3 ・「調」をテーマにした音遊びをし、長調、短調それぞれがどんな様子を想像するかを交流する。【手立て(1)①】 ・長調か短調かを色カードで提示させることで、視覚的に分かりやすくする。【手立て(2)③】 ・前時のワークシート等を提示し、学習内容を想起させる。【手立て(2)②】 ・見通しを持てるように学習のゴールを示す。
展開 15分	ア（主部）とイ（中間部）の曲想の変化を感じて、曲のしかけを見つけよう。 3 アを構成する2つの旋律とイを構成する2つの旋律の変化を理解する。 □「前回書いたワークシートを見ながら曲を聴いて、どう感じたかを思い出しましょう」 □「繰り返しは2回ずつでしたね。次は、アの指揮をして強弱と速度について確かめましょう」 ◇「最初は強いけど、途中で弱くなる」 ◇「ずっと速いけど、遅くなる場所もあった」 □「イの強弱と速度についても指揮をして確かめましょう」 ◇「イも最初は強いけど途中ですごく弱くなる」 ◇「最初は速くて、急に遅くなる場所がある」 □「アもイも強弱や速度の変化は同じですね。では、どうして感じ方が違うのでしょうか」 ◇「曲の感じ（調）が違う」 □「色カードで示しながら聴いてみましょう」 ◇「アが物悲しい、イが明るい」	♪ア(0:59)×3 ♪イ(0:31)×3 ・前時のワークシートの書き込みや曲から感じたことを確認させる。 ・旋律の動きをなぞった映像を見せることで、繰り返しを確認させる。【手立て(2)③】 ・演奏を聴いて、指揮を実際に行ってみることで速度や強弱の変化を感じさせる。【手立て(2)②】 [知・技]（指揮、発言）
15分	4 聴き取ったことと感じ取ったことの関わりを曲想と結び付けて聴く。 □「アはどうしてそう思ったのかな。グループで、友達と色が違うところを話してみましょう」 □「自分の感じた色のコメントに、そう感じた理由を書いて提出しましょう（タブレット端末使用）」 □「イも同様に考えて提出しましょう（タブレット端末使用）」	♪ア(0:59) ♪イ(0:31) ・なぜ長調（短調）のように感じたかを考えさせ、言葉で明確にする。その際、アプリケーションソフトを用いて、色分けしたコメントに書かせ、他者の考えを共有し、学び合いのきっかけを作る。書くことが難しい場合は「音楽の感じを表す言葉（組合せバージョン）」を参考にさせる。【手立て(2)②】 [思・判・表]（発言、コメント）
まとめ 7分	5 振り返りをする。 □「ブラームスのどんなしかけを見付けましたか。工夫をまとめてみましょう」 6 次時の学習内容を知る。 □「次は曲全体を聴き、作曲者に手紙を書きます」	♪曲全体(2:20) ・個の学びを確かめる振り返りの時間をとる。【手立て(2)①】 [思・判・表]（発言、ワークシート） ○次時の学習内容を知らせ、意欲を高める。

(4) 本時の評価

強弱，速度，音の響きの変化と曲想との関わりについて気付いている。

[知識・技能]

「十分満足できる」状況 (A)	「努力を要する」状況 (C) と判断されそうな児童への働きかけ
強弱，速度，音の響きの変化と曲想との関わりを結び付けて発言したり記述したりしている。	ワークシートや板書にまとめた表のAとIの違いは何かを見付ける支援を行い、「…だから～と感じる」という話型に当てはめて考えさせる。

強弱，速度，音の響きの変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。[思考・判断・表現]

「十分満足できる」状況 (A)	「努力を要する」状況 (C) と判断されそうな児童への働きかけ
複数の音楽を形づくっている要素に気が付いて，それらから感じ取ったよさや面白さを結び付けて発言したり記述したりしている。	友達の発言やワークシート，「音楽のもと」などを参考にして，AとIの特徴を考えるように声掛けをする。

(5) 準備物

教師：教科書，音源，ワークシート，長調・短調カード，タブレット端末，拡大楽譜

児童：筆記用具，教科書，音楽ファイル，長調・短調カード，タブレット端末

(6) 板書計画

めあて AとIの曲想の変化を感じて，曲のしかけを見つけよう。

	ア				イ		
	①	②	③	④	①	②	③
強弱 							
速度 							
気持ちはどっち？							

調
短調
長調

AとIはなぜ
曲想がちがうのか？

※前時の板書，旋律をなぞる映像，児童のコメント一覧等はテレビに映します。

(7) 学習プリント

音楽「曲想の変化を感じ取ろう」② _____月____日 6年____組 名前()

めあて AとIの曲想の変化を感じて，曲のしかけを見つけよう。

1. 曲をきいて気付いたことを書こう。

	ア				イ		
	①	②	③	④	①	②	③
強弱 							
速度 							
気持ちはどっち？							

2. プラームスの工夫をまとめよう。

めあて達成度
◎ ○ △